

# 受け身構文

## AはBに～される

“受け身構文”とは一般に「～に～される」という言い方を表すもので、中国語では受け身を作れるものとして「被bei4」「让rang4」「叫jiao4」などが代表的として挙げられます。受け身構文自体はその語順を覚えてしまえばすぐにマスターできる比較的簡単な文法事項ですのでサッと学んでいきましょう。

\*受け身構文の特徴：「～された」と訳す様に一般には被害を表すことが多いですが、必ずしもそうでない時もあります。また受け身を表す「被 bei4」「让 rang4」「叫 jiao4」の三者は基本的には交換可能ですが「被」だけが持つ特殊な用法もあつたりしますのでその辺りもよく確認しておきましょう。

## 受け身構文の語順

受け身の基本語順は至ってシンプルです。

A (やられた側)	叫 被 让	B (やった側)		
			動詞	その他の成分

A：被害者と言います。（やられた側）

B：行為者と言います。（やった側）

この語順をよく確認して例文を3つほど見ていきましょう。

例1	公司的传真叫人修好了。 会社のファックスは修理された。
例2	我的电脑被哥哥弄坏了。 私のパソコンは兄に壊された。
例3	我让他欺骗了。 私は彼に騙された。

ご覧の様にまず例1では会社の【A：ファックス＝被害者】が【B：人＝行為者】によって直されたとなっており、必ずしも被害を表さないといい例になっています。

例2でも“被”を挟み {A：私のパソコン＝被害者} が {B：兄＝行為者} 壊されるという関係がみてとれ、例3でも {A：私＝被害者} が {B：彼＝行為者} に騙されるという関係が確認できます。

**\*受け身構文の後ろの成分：**受け身特に「被」構文は被害者が「何をされて」「その結果どうなったか」という何らかの行為を受けた結果を述べる文章ですので結果補語や方向補語など、「把構文」に似た、処置を表す成分を置くことが多いです。

## 「被」「让」「叫」の違い

冒頭で「被」「让」「叫」の三者は基本的には交換可と書きましたが、用法とニュアンスに少し違いが見られます。以下の表をご覧ください。

被	書面・口語	行為者（やった側）を省略可能
让・叫	基本は口語	行為者の省略は不可

「被」は書面語で使う文章語的なニュアンスが少し強く、日常的には「让」や「叫」が多く使われているそうです。

上の『“被”は行為者（やった側）を省略可能』とはどういう意味でしょうか？  
次の2つの例文をご覧ください。

例1	钱包被偷了。 財布が盗まれた。
例2	我们的秘密被发现了。 僕たちの秘密がバレちゃった。

上記二つの例文は {誰がやったのか?} は書かず省略されています。「被」に関してはこの様に書くことが可能なんです。

**ちょっと補足：**「被」構文は被害者が「何をされて」「その結果どうなったか」という部分を強調する文と言えるので「誰がやったか」という行為者（やった側）の情報価値は低くなります。上記二つの例は行為者の価値が低くなった結果見られる省略現象と呼べるかもしれません。

# 否定形・疑問形の作り方

## 【否定形】

受け身構文の否定形は〔被・让・叫〕などの前に「不」や「没」をつけることでできます。助動詞などがある場合はその助動詞を否定形にします。

不	他做了好事却不被理解，心里很苦恼。 彼はいい事をしたのに理解されず悩んでいた。
没	我没被选中，心里有点闷闷不乐。 私は選ばれず、気分が少しもんもんとした。

## 【疑問形】

受け身形の疑問文は「～吗？」疑問文か「有/没有」を使った正反疑問文にして表現します。

～吗？	我们被他怀疑着吗？ 私たちは彼に疑われているのですか？
正反疑問文	今天被客人抱怨了没有？ 今天有没有被客人抱怨？ 今日はお客からクレームが来たのかい？ * 「有没有」の場合は“被”の前に置き「了」は消えます。

## 受け身を使わない時もある

「～される」と訳せるからと言って何でもかんでも受け身表現にしているのかというと案外そうでもありません。何か断定できる方式があるわけではないと思いますが以下のような文は一般に受け身形を用いません。

信写好了。	手紙は書き上がった。
问题解决了。	問題は解決した。
那辆车已经修好了。	あの車はすでに修理した。
钱挣取回来了。	ビザは取ってかえてきた。

これらの文章は日本語的に判断すれば「手紙を書き上げられた」「問題は解決された」と受け身的に捉えることができると思い、意味上の受け身だという主張もあります。

しかしながら「信被写好了」「问题被解决了」といった言い方はできないため、受け身にはどうやっても代別できず「単純に主語とその陳述」で表しているだけだとも言えます。

こういった受け身に見えて受け身を使わない表現は出会った時に覚えていくしかないように思うので、訂正されたり気付いたりしたらその都度メモしておきましょう。

## おまけ「挨」の使い方

厳密に言えば「受け身を作る介詞」ではなく「受け身の意味を持つ動詞」と捉えるべきかもしれませんが、『挨』は受け身のような意味合いで「（誰かに・何かを）～される」「（不幸・ひどい目などに）遭う」という意味を表すことができます。

意味合いとしては「罵られる・殴られる・批判される」など結構マイナスのことに関して多く使うイメージがあります。実際に中中辞典で調べると「挨=遭受（不幸・困難などに）遭う」と出てきますのでマイナス表現が来るのも納得です。

我挨了两次骂。	私は2度罵られた。
肩上突然挨了一拳。	肩を突然ばかりと殴られた。
我挨了他两次批评	私は2度彼から批判された。
那时常常挨工头打。	当時はしょっちゅう現場監督に殴られたものだ。

ちなみに「遭」や「受」も広義の意味で受け身を表すことができます。

那年发大水，很多地方都遭了水灾。	その年大水が流れ、多くの場所が水害に見舞われた。
他经常受虐待。	彼はいつも虐待を受けている。

これらの単語も『挨』同様にその動詞自体が「～される」という意味合いを含んでいますのでわざわざ「被」などの受け身介詞は用いません。

